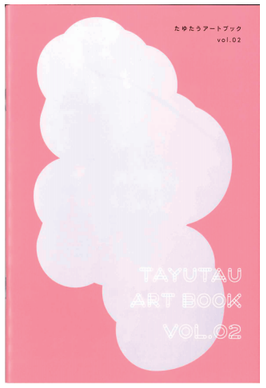
たゆたうアートブック VOL.2 のご紹介

絵画工房たゆたうの作品集第2弾が完成しました！

●絵画工房たゆたう
さまざまな障害のある方が創作活動に取り組む絵画工房です。一人ひとりの想像力と創作力を最大限に引き出すこと、感性や個性を表現豊かに育むことを目指しています。現在約40名の方が制作に励んでおり、発表の場として、年に1度王子カルチャーロードギャラリーでの展覧会も開催しています。

●2冊目の作品集を刊行
2015年の開所以来、月に1回のペースで集まって、たくさんの作品を創ってきました。前作に引き続き、ブックレーベル「aptp books」の滝口聡司氏、宮添浩司氏のお力添えにより、絵画工房たゆたうで生まれた作品のアートブック第2弾ができました。通っている方がこれまでに描いた絵の中から、ご本人やご家族が気に入った作品を1点ずつ掲載しています。



●たゆたうアートブックの購入方法
1冊660円（税込）で販売しております（会員価格500円税込）。お名前、住所、お電話番号、希望冊数を明記の上、FAXまたはメールにてお申込みください。メールの場合は、件名に「たゆたうアートブック申込」と必ず記載してください。
お申込みの確認ができましたら、冊子と振込用紙を郵送いたしますので、お振込みをお願いいたします。

入会のご案内とご寄付のお願い

ピアネット北では、一緒に活動をしてくださる正会員、活動の趣旨に賛同して資金面の援助をしてくださる賛助会員の方を募集しています。入会ご希望の方は、右記口座にお振込みいただくかピアネット北事務局までお問い合わせ下さい。

正会員 年会費 10,000円
賛助会員 3口より（1口1,000円）

■ 振り込み先
郵便口座：
00100-5-296049
口座名称：
特定非営利活動法人 ピアネット北

■ お問い合わせ
TEL＆FAX：03-3905-7226

ピアネット北通信

peernet

2021（令和3）年10月発行　第34号

私たちピアネット北は、「ないものは自分たちの手で！」を合言葉に、毎年様々な行事を企画しております。しかし、新型コロナウイルスの影響により日常の生活が大きく変わってしまいました。今年度もバーベキューやバリアフリー旅行、あこの会のハイキング、宿泊訓練、懇親会などの行事は中止にせざるを得ない状況となってしまいました。本誌が発行される2021年10月下旬では、新型コロナウイルスの新規感染者数はだいぶ低い水準となっていますが、いつまた感染拡大するかわからない状況では大人数で集まってのイベント開催は難しい状況です。
イベントを楽しみにしてくださっている皆様には申し訳ないのですが、今の状況が早く改善し、みなさまと集まって楽しくイベントができる日が戻ってくることを願ってやみません。

2021年10月　理事長　井上良子

重度身体障害者グループホームやじろべえ

やじろべえでは入居者のみなさまに、外食の自粛や外出の回数を減らすなどの協力をお願いしています。コロナウィルスの影響を受ける日々でも楽しい生活が送れることを意識し、休日の昼食はたこ焼きやお好み焼き、夕食は餃子やハンバーグなどをみんなで作りました。
少しでも調理に参加できるように、紐を引っ張ればみじん切りができる、ブンブンチョッパーを購入し大好評でした。まだまだ以前のような生活は難しいと思いますが、できることから始めていきたいと思っています。

事務局
〒114-0003 北区豊島5-5-5-612
TEL&FAX：03-3913-9308

あこの会（療育相談）・絵画工房たゆたう
〒114-0032 北区中十条1-4-7インクリースビル6階
TEL&FAX：03-3900-6848

北区障害者基幹相談支援センター
〒114-0032 北区中十条1-2-18
TEL&FAX：03-3905-7226

重度身体障害者グループホーム やじろべえ
〒115-0052 北区赤羽北1-7-23
TEL&FAX：03-6657-9077

URL：http://www.peernet.or.jp/　E-mail：peernet@peernet.or.jp

あこの会（療育相談）

新型コロナウイルスの感染者が減少傾向になり、少しずつ人びとの活動も活発になっています。ワクチン接種の広まりなどもあり去年と同じ状況ではないと思いますが、不安を拭えない日々なのではないでしょうか。
このようなはざまの時期に、発達につまずきがある子どもたちを育てている家族はどのような思いを持ちながら子育てに取り組んでいるのでしょうか。あこの会に通われる保護者の方々の声をいくつかご紹介したいと思います。

●マスクに関する心配
・学校ではマスクをすることになっているが、実際にどのくらいちゃんと着けているかが気になる。
・スクールバスは陽性者が出ると全員が濃厚接触者になる決まりなのに、まったくマスクをつけていない子も多いので不安。
・スクールバスを見ていると、１年半を過ぎた今でもマスクをしていない子たちがいることが気になっている。

●検査や入院に関する心配
・以前PCR検査を受けさせた時、大あばれだったので気が重い。
・いざコロナの陽性となって入院となるのは恐い（入院先がすぐに決まるのか？　親が付き添いという条件になると他の兄弟がどうなるのか？）

●活動や体験の制約に関する心配
・あこの会や学校の行事が中止になってしまい、ふだんの学習では学べないことを経験する機会が減っているのが残念です。子どもの心の成長を考えると、できることが増えたらいいなと期待しています。
・公共交通機関を利用して外出するようにしたいと思っていましたが、コロナがなかなか収束しないので車で出かけてしまいがちです。中学生になったので、ひとりで電車やバスを利用するための練習ができるようにしたいのですが、コロナの不安からできていません。

●保護者の「親」に対する心配
・コロナの感染拡大が、今はおさまっていますが、また12月頃に流行りだすのではと不安に感じます。実家が遠方でここ２年帰省できていません。電話の声では元気ですが、実家の親の精神面が心配です。

マスクをつけていない子への不安というのも多いようです。あこの会では以前から調理の際にマスクをつけることを練習していたので、つけられない子はいません。さまざまな理由があるのでしょうが、つけられない場合にはほかの感染を防ぐ工夫を講じなければならないと感じます。
活動の制約による成長への不安もあります。あこの会でも、課題を工夫しながら子ども自身が主体的に考えながら活動するプログラムを作っていきたいと思っています。

絵画工房たゆたう

利用者のみなさんがアトリエで絵を描く姿や完成した作品を見ていると、コロナウイルスの感染拡大による影響をあまり受けていないように感じます。しかし、保護者からふだんの様子を伺うと、職場への出勤ができなくなり自宅で過ごすことが多くなっている方がいたり、外出ができなくなったことから家で時間を持て余し気味になっていたりと、大きな変化のなかを過ごしている方も少なくないようです。今までに感じたことのないストレスを抱えている方も多いのだろうなとあらためて気づかされます。
アトリエにみんなで集まって絵を描くだけの時間というのが、ストレス発散に役立っているのかな？などと考えたりもします。

今年度もさまざまな公募展が中止になっていますが、王子カルチャーロードギャラリーでの「絵画工房たゆたう展」（６／９～２２）を無事に開催することができました。ガード下のギャラリーのため、作品を鑑賞している方と話す機会はあまりありません。それでも設営準備や片付けのときには、「去年も見たよ」「いつも明るい絵でいいね」などと多くの方に声をかけられました。今年で６回目の開催となり、少しずつ地元の方にも知ってもらえているように感じます。

たゆたう展への出展の基準はシンプルです。それは「作者自身が好きな作品を選ぶこと」です。今回は作者自身のコメントを紹介したいと思います。

「（山の絵を選んだのは）木をかくのがすきだからです。山はきれいなのですきだからです。色がたくさんあるので気に入ってます」
「特にしっぽの部分が良いのと模様が上手く描けたのでイトヨリダイにしました」
「木と小鳥の絵が描けてよかったです。今年度もこの調子でいきたいと思います」
「青リンゴがすきです。ネギが上手にかけました」
「いろんな色を使って芸術的に完成できたので良かったです」
「パインナップルのもようが上手に描けました。葉っぱが好きです」

アトリエにはうまく話すことができない、書くことができない方も多くいます。そのような方の場合には、家族が作品を並べて見せたり、絵の写真を比べたりとさまざまな工夫を凝らしてなるべく作者自身が選ぶように促しています。選ぶときの様子を聞くと、すぐに指差したという声もありました。それぞれの思いがあるのだなと再確認したエピソードです。

アトリエに集まるみなさんが「楽しい！」と感じられる時間をつくっていきたいと思います。